



平成26年2月1日発行
 第19号
 発行責任者 阿部孝
 編集担当者 安田元
 発行所 東北刈刈(株)
 酪農機械部
 宮城県大崎市古川
 新田字泉屋敷59-4
 TEL(0229)26-4330
 FAX(0229)26-4338

第19号

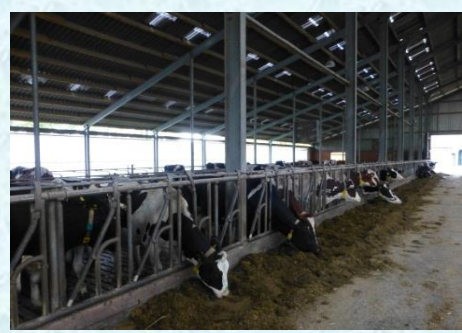
ドイツ 酪農視察レポート③

寒い日々が続いています。最近、子牛が高値で取引されております。皆様の子牛がすくすくと元気に成長し、元気に春を迎えることができますようにご祈念申し上げます。

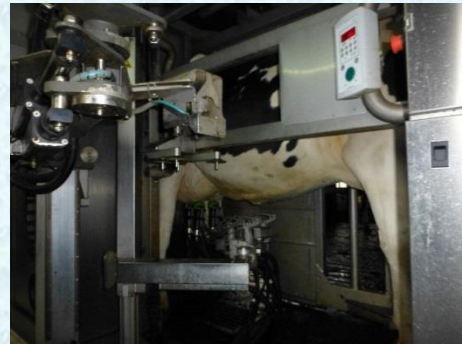
11月にドイツを訪れる機会を得ました。農場の経営について引き続きお伝えします。

訪問した牧場名: デームズ牧場
 搾乳ロボット Mi-one 2ボックス 2基 使用

- 所有耕地150ha
 (60ha放牧地+60haテート作物付+30ha他の飼料作物)
- 搾乳頭数210頭(110頭ずつが2か所で搾乳される)
- 家族3人+雇用労働者1人(農場長)+短期作業員1人(削蹄等に従事)にて経営
- 平均乳量8,400kg/年、平均搾乳期間300日ほど、分娩間隔380日、個体あたり生涯乳量34,168kg
- Mi-oneは2008年11月に1台、2011年4月に2台目が納入され、現在女性の農場長が担当



TMRは2群で設計



家族経営でロボット搾乳を選択する経営が増えている



←蹄の管理に余念がない

おまけの写真



「駅のパン屋さん」朝早くから焼きたてのパンを売っていました。

編集後記

最近、古い牛舎を哺育・育成舎に改築されたお客様の所に牛床マット敷設工事に行ってきました。マット敷設前は、床が滑るために牛がけがをしないか心配だったそうです。マットを敷設した後、マットの上で育成牛がゆったりと歩き、反芻をする姿に施主のお客様はとても喜んでくださいました。まだ寒い日々が続きます。子牛を寒さから守ると共に、十分な栄養を与えましょう。

ドイツの視察レポートはいかがでしたか!?

【ドイツ視察のまとめ】

ヨーロッパにおいては、アニマルウェルフェア(動物福祉)の観点から、2015年以降の新築の牛舎においては繋ぎ飼いが禁止されます。

そのために、家族経営においても搾乳ロボットを選択する生産者が増えてきています。

デームズ牧場においては、2台のロボットが搾乳をする代わりに、農場長や従業員の方は、削蹄を行ったり、草地の管理を行っていました。

ロボットに表示される搾乳の情報や牛一頭ごとの搾乳状況をもとに個体の健康状況を確認していました。

今回、アグリテクニカ(国際DLG農業技術展)の展示は、バイオガス等再生可能なエネルギーと発電に必要な有機物の効果的栽培と供給の技術に各社しのぎを削っていることが見えました。ドイツ国内風景をみても風力発電装置があちこちで目に付き、国策での自然エネルギー確保が展示会の賑わいに繋がっていると感じました。

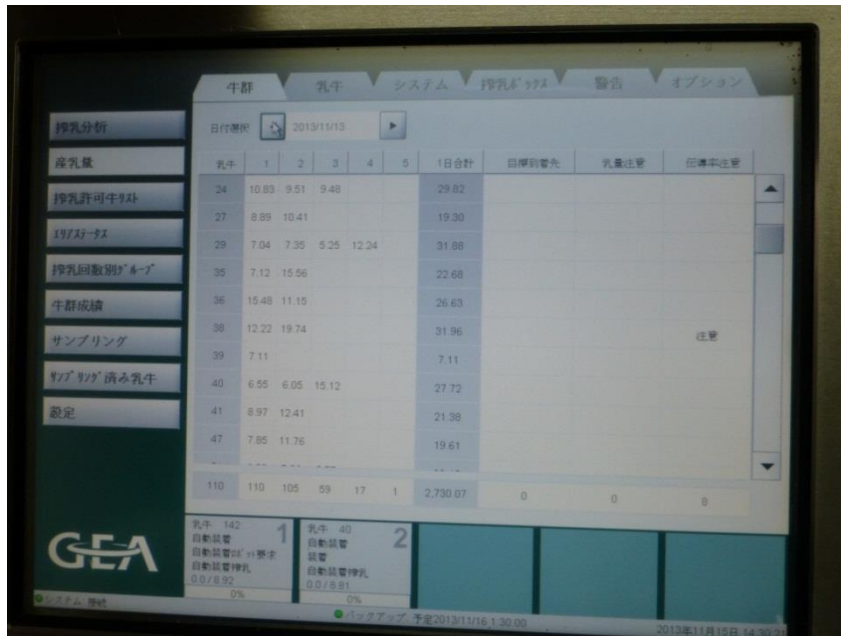
(視察レポート おわり)



サイロには農場長さん描いた絵が！



こちらの農場も古い建物を大切にしています



ライン河とケルンの大聖堂

搾乳ロボット「MI-one」表示画面の一例
牛群、個々の牛体情報など様々な情報を確認できます
(表示画面は、デームズ牧場にて表示言語を日本語にしたもの)

■ 子牛の下痢発生率を防止するのは、カウアップORIONが最高！

■ 下痢を見つけたら！

下痢の発生初期で、元気および哺乳欲があり、脱水程度の軽い子牛や経口摂取が可能な子牛に対しては、**牛乳や人工乳の給与を中止し、経口補液で水分と電解質を補い脱水予防**を行いまし
よう。



カウアップORION

こんな時にも給与してください

- 栄養性の下痢発生時
- 軟便発生時
- 長距離輸送時
- 暑熱時・夏バテ時
- 分娩前後
- 子牛の生後1ヶ月間
予防剤として

